



# 道は拓けたり!

昨年まで我が会の重要な発表・練習の場であった茨城県フラワーパークが経営刷新等の事情から、定期的な口上実施が困難となりました。日夜熱心に練習に励む会員にとって、定期的な発表の場の開拓は喫緊の課題でした。そして会員の熱意は、いくつかの門戸を拓く大きな原動力となりました。

## 下妻道の駅 定期公演

小町塾 星野和哉

下妻道の駅で七月より月二回の定期的な「がまの油売り口上」を行うことができるようになりました。

この開催に至った経緯を、紹介いたします。まず、私はサラリーマンの傍ら家内と一緒に農業をしています。平成九年「下妻道の駅」ができた当初から、その会員となり自分で作った野菜直売所に出していた関係で下妻道の駅とは長い繋がりがありました。

口上については、小町塾で指導をいただき、二十七年には 古河の桃祭り、あるいは 八郷フラ

ワーパークにおいて人前で「がまの油売り口上」を実演することができるようになりました。そこで昨年十一月、腕試しの意味もあって、下妻道の駅 野菜直売所の荒川店長に「がまの油売り口上」をやりたいとお願ひしました。が、当然実績もなくやつと本年一月十日(日曜日)午後二回口上を実演することができました。当日は家族も見に来てくれ、見物客二十人位おりました。(観客が増えたのは家族の影の協力があつたものと思つております。)その状況を遠巻きに、道の駅の大塚駅長と荒川店長が見ており、自分では、初めてとしては「まあまあ」の出来

を実感しました。その後、野菜を出荷に行った時、荒川店長に次回開催をお願いしました。即諾はなく、意を決して 三月に再度お願いし、荒川店長より下妻道の駅本社(本社はビアスパーク下妻にあります)からの了解をいただいて5月連休での開催となりました。下妻道の駅側からは、連休中当方で開催日を決めてよいとの条件をもらつておりました。そのことを小町塾酒井会長にはかり、急遽ではありましたが塾メンバー協力のもと四日間(四月二十九・三十日、五月一・五日)二人ペアで一日四回公演にこぎつけました。結果は、一月私一人で実演した時とは違って、下妻道の駅での評判は上々、多くの来場者に楽しんでいただきました。

その頃、突然八郷フラワーパークでの定期公演の中止で、年間で活動できる場が失われました。



初めての公演 (1/10)

私も当然参加予定でした。そんな状況下、四月二日石岡桜祭り・四月二十九日下妻道の駅で、一緒にやらせていただいた山口さんと話しているうちに、下妻道の駅で定期的な開催ができればという話が出てきたわけです。そのことを酒井会長に相談、五月小町塾定例練習会で下妻道の駅の七月から年内十二月までの月二回の定期公演の計画を協議。合意をもらつたうえで、荒川店長を通して下妻道の駅本社へ打診をし、快諾をもらいました。これは、当然五月連休の公演の評判によるものです。

次年度も定期的公演ができるように、来場者を魅了し下妻道の駅名物となるようにと思つております。

← 四月の連休時

← 第二回定期開催



この春、がま口上実演の場として、新天地を提  
供して頂いたのが石岡市常陸風土記の丘である。

石岡市常陸風土記の丘とは、縄文時代から江戸  
時代までの茅葺民家などが復元された広場などが  
あり石岡市の古き歴史や文化が体験できる公園で  
ある(無料)。四月はソメ

イヨシノ・シダレザク  
ラ・ボタンザクラ、六月  
には、五万本のスカシユ  
リ、夏には、古代ユリと  
見事な花の名所ともいわ  
れている。

早速「常陸風土記の  
丘・桜まつり」の催しに  
合わせ、四月二日から四  
月二十四日までの土日に、  
がま口上も八回程開催さ  
れることになり、本会の  
総勢十七名のがま口上  
が華やかに出揃った。

そして、四月十六日は  
私自身の出番の日。会場  
入りすると❀春爛漫❀  
それはそれは見事に咲き  
ほころぶ桜の花々にまず  
目も心も奪われた。「すごい！きれいな」の連発。  
外に言葉が見つからないなかで、また一つ熱い視  
線を感じた先には、カメラを廻しながらここにこ  
とこちらに近寄る紳士。本日の出演相手である松  
葉さんとも無事合流できた。

さあ、ロケーションと人の出足は文句なし。行



き交う方々をどうやって引き込むか、会場の準備  
にも力が入る。舞台の上には松葉さんのがま一式  
が並ぶ。細やかで丁寧な細工の品々には、アイデ  
アがいっぱい詰まっついて見ても楽しいと同時に、  
がま口上への熱いものが感じ取れた。もちろん実

### 桜咲く風土記の丘にがま口上

つくばね会 市村文子

演口上の語りも素晴らしかった。優しい口調で客  
に語りかける場面が自然体でとても上手。一方、  
私方は「生の桜吹雪にや負けちゃうねえ」っと、  
アドリブで一片散る花びらを見上げ紙吹雪をチラ  
チラと散らせる場面がうまくいったと(自賛)す  
る。

思い返せば実演場所のフラワーパークには長  
年、たくさんさんの経験をさせて頂いたことに改めて  
感謝したい。また、新たな場所には、初心のごと  
く一生懸命喜んでやらせて頂き、二度三度とお声  
がかかるよう努めたいとの思いで帰宅した。



思い出のフラワーパーク

この八月、リオ五輪に甲子園野球(常総学園)  
とスポーツ三昧の暑い夏は今真つ盛り、我が家に  
来たばかりの犬(ダッ  
クスフンドミニ3歳ラ  
ツキー君)もやんちゃ  
盛り。朝夕の道草散歩  
も日課となりつつある。



「野良道を犬ピチピチ  
歩く、わたしサテサテがま唄う」と、うまく設定  
してはみたものの「継続は力なりぞー」と、聞こ  
えてくる天のささやきに 『よし、毎日やるぞ！  
歩き、声出しこの喉にこの身体にくびれを作るを  
期待し、これまた先の見えない努力こそ』  
これからも、自分らしさを念頭に、アイデアを  
もって、幼稚園や保育園で、地域や介護施設で皆  
さんに喜んでもらえる「がまの油売り口上」を、  
目指していきたい。

# がま口上と少年野球

つくばね会 萩原義夫

関東地方にもやっと暑い夏がきた様です。

「がま研」の皆様にはご無沙汰して居ります。集団登校する小学生を見守って十一年目の夏になります。元気に登校する子供達から「お早うございます。」と元気な声が返って来るとこちらも元気になります。安全を見守って、元気をもらっています。

孫の野球のコーチになって九年目。上の孫は中学三年、下の孫は小学五年になり、今は下の子のチームのコーチの一員です。投げる、走るのほもう一年生にも負けるでしょう。フォーム、型の指導と球拾いです。これも元気をもらっています。子供と一緒に居る事で元気をもらっているのです。

夏休みに入って熱く燃えているのは高校野球だけではないのです。小学生だつて六年生は最後のリーグ戦、トーナメント戦です。厳しい練習、試合の合間に入る楽しい一日それが合宿です。

今年七月二日(土)、午前中の練習の後、四年生以上十七名とコーチ陣、お母さん達、四十一名で市の野外研修所で一泊二日の合宿。入浴、夕食後、体育館で「がま口上」を見て、卓球大会等で楽しく遊んで就寝。

二日目は朝食後、天気がいいのでグラウンドで



生と四つ。四年生にはロッテ旗、五年生には日ハム杯、六年生には近隣大会等年間を通して沢山の大会が有ります。全部に参加する事は無理です。で、チームで選択して年間計画を立てる事になります。

野球をやる子が減少し、サッカーをやる子が増えていくようですが、何でもいいです、自分がやりたいと思うスポーツをやして下さい。若いうちにスポーツをやって健全な体に宿る健全な精神を持つて下さい。

練習となりました。毎年の事ながら子供達にも大人のコーチ達にも有意義な合宿です。

小学生の野球ですが、学年別のリーグ戦があり、六、五、四、三年

## 忘年会のお知らせ

期日：11月26日(土)～27日(日)

行先：塩原温泉

宿泊：ホテル おおるり

会費：11,000円

集合：新治商工会 駐車場 午前8時

昨年までの新治庁舎は本年は利用できません。

\* 詳細は案内の往復はがきでご確認ください。



平成28年度

## がま口上講座

開催日：① 9月24日(土)

② 10月8日(土)

③ 10月22日(土)

④ 11月5日(土)

午前10時～正午

場所：土浦市立『小町の館』

定員：30名

受講料：無料

\* 興味をお持ちの方がおられましたら是非お誘いください。

山として栄えた時代の一端を偲ぶことが出来た。その後、法雲寺の門前市が開かれた高岡の宿通りを歩き、樫の原木が群生する「ふるさとの森公園・「岡の宮(鹿島神社)」境内を通過つくばりりんろー



誰を待つ？

新緑の筑波路めぐりハイキングは、会の目的でもある「筑波山周辺の歴史や文化財及び自然環境等の調査研究」に基づき始めたもので、講師の井坂敦實先生には、毎回資料作りや現地案内を快くお引き受けいただき、かつ懇切丁寧なご指導を賜りましたこと、感謝の念に堪えませ



↓法雲寺本堂

今回、『小田氏ゆかりの高岡・藤沢コース』の実施に当たり会員・家族など十五名が参加。土浦市新治商工会館の駐車場に集合、いざ出発。初めに小田八代当主・治久の猶子となった復庵禅師が開いた禅宗の古刹「法雲寺」を散策。かつては、県内外に多くの末寺

## 『小田氏ゆかりの高岡・藤沢コース』を歩いて

林 正 一

夜供養之塔(市指定)をお参りした後、会員の田神さん宅に立ち寄り、お茶を頂いきながらの歓談。感謝！

ドの休憩所になっている旧筑波線の常陸藤沢駅舎跡で昼食を兼ね休憩をとった。午後からは、永く地元住民により守り継がれてきた木造地藏菩薩立像(市指定)を見学。この像は、小田十五代氏治が亡き母の菩提を弔うために建立した法華院にあったとされる。邦見寺・極楽寺跡を左に眺めながら、藤沢城の旧武家屋敷が連なる街並みを歩く。次に訪れた「神宮寺」では、水戸市の六地藏寺から株分けされた徳川光圀公お手植えの枝垂れ桜や天然記念物の百日紅の古木を眺め、鎌倉初期に八田知家によって築城されたと伝わる藤沢城址を横に見ながら、県指定史跡の「藤原藤房卿遺跡」へと向う。同所は藤房卿の遺髪を埋葬したと伝えられることから髪塔塚とも呼ばれ、今なお塚に残る榎の原木が往時を偲ばせてくれる。神宮寺の裏手に、寛永八年の紀年銘が刻まれた県内でも珍しい石造多宝塔(市指定)がほぼ完全な形で残されていた。石仏・石塔に興味のある方には必見の文化財である。ハイキングもいよいよ終盤、小田十二代成治の供養塔と伝えられる「松岳寺」の石造五輪塔(市指定)や藤沢地区の鎮守様「八坂神社」境内に残る多くの石造物を見学、最後に慶長十二年の紀年銘が刻まれた板碑・二十三年の夜供養之塔(市指定)をお参りした後、会員の田神さん宅に立ち寄り、お茶を頂いきながらの歓談。

今回のハイキングは、あまり知られていないコースではあったが、小田氏ゆかりの史跡や仏像、石仏・石塔など数多くの文化遺産に触れることが出来、参加者にとって大変に意義深いものであったと感じている。来年度も、会員の健康維持を兼ね筑波山麓を巡るハイキングを計画したいと考えている。お薦めのコースがあったらぜひ紹介していただきたい。

### 『新緑の筑波路めぐりハイキング』の足跡

- 平成 22 年度 『筑波山麓』 神郡・六所・白井・立野・沼田地区
- 23 年度 雨天中止
- 24 年度 『小田地区』
- 25 年度 『北条地区』
- 26 年度 『筑波山神社周辺』
- 27 年度 『小野小町の里』
- 28 年度 『高岡・藤沢地区』



### 編集後記

『四年に一度』を免罪符に、テレビにかじりついてきた二週間。うれし涙と悔し涙に、努力の日々を思い胸を熱くしました。さて三十三号をお届けできる運びとなり、こちらもほっと一息。口上以外の活動や、幼き頃の思い出などの原稿も募集しております。ホームページまたは左記への投稿も可能です。お待ちしております。

原稿送付アドレス [tgod6474@i-next.ne.jp](mailto:tgod6474@i-next.ne.jp) 編集 子